

## 「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)についての実態調査」の結果について

医療安全部では、COVID-19の感染第1波がほぼ収まりつつあった2020年6月末までの段階における妊産婦や産婦人科医師などの感染者数や各施設の院内感染防止のための取り組みの実態を調査する目的でアンケート調査を行いました（7月11日から8月11日に実施）。この時期はCOVID-19の再拡大の時期にもありましたが、多くの皆様にご回答をいただきありがとうございました。集まったデータについての解析結果の概要を以下のようにまとめましたので、ご報告させていただきます。各調査項目についての結果の詳細を記したPDFファイルを掲載しましたのでご参照ください。

今後、インフルエンザの流行にあわせ、再びCOVID-19の再拡大によって混乱した状況の発生が危惧されています。このアンケート調査結果をご活用いただき、今後のCOVID-19の院内感染発生などの対策にお役立ていただけましたら有難く存じます。

### 記

#### 調査結果の概要：

- 分娩取扱い医療機関 2,185 施設を対象に行われ、1,418 施設（回収率 65%）から回答を得た。
- 外来・入院中の医療者の感染対策として、マスク装着は約 80%、ガウン・ゴーグル・手袋装着は 50%以下であった。
- 院内感染は 58 施設(4.1%)で発生しており、そのうち産婦人科内での発生は 9 施設(0.6%)であった。
- 産婦人科内での院内感染は、他科病棟からの波及、医師・職員を介した発生であった。
- 院内感染は、多くの患者が出入りする施設ほど発生率は高く、院内感染のあった施設では CT や PCR 検査が多く実施されていた。
- 院内感染防止には有症状患者のピックアップと標準的予防策が重要である。感染拡大局面においては、有症状患者と無症候患者を施設で分ける策も有用な可能性がある。
- 2020 年 6 月末までの 6 か月間に、72 人の陽性妊産婦 [有病率 0.02%: 72/305,722 (半年の報告施設の分娩数)] の報告があった。
- 妊産婦の感染経路は、家庭内感染が 57%と最多であった。
- 無症候妊産婦のユニバーサルスクリーニング実施施設における検査陽性率は 0.03%(2/7,428)であり、有病率とほぼ同等であった。
- 一次施設は有症状者を感染症対応施設に紹介することで結果的に院内感染が防御でき

ていた。

- 陽性妊産婦の 81%(58/72)が有症状であり、その 71%(41/58)には発熱があった。
- 妊産婦死亡事例は 1 例発生(外国人旅行者)したが、わが国で妊娠管理中の妊産婦に発生はなかった。
- 有症状の妊婦の 17%(10/58)に酸素投与、2%(1/58)に人工呼吸器が必要であった。酸素投与を要する有症状の妊産婦は、妊娠後半・産褥期には 39%(7/18)であり、妊娠初期・中期(8%: 3/40)に比べて有意に多かった。
- 出生児への感染の報告は無かった。

#### 本調査からの提言：

- ・ わが国の妊産婦の COVID-19 有病率は約 0.02% (1:5000)であり、決して高い頻度ではなかったが、感染者のなかには家庭内感染によるものが多く、同居者の感染予防が重要である。
- ・ 自宅に感染者、濃厚接触者が居る場合に、妊婦が安全に隔離されるような体制が必要である。
- ・ 妊婦に ECMO 導入が必要な状況における児娩出を含めた対応についての指針を作成し、COVID-19 管理医師とも共有する必要がある。
- ・ アンケート実施時期と同等の有病率であれば、①有症状者に対して PCR 検査を行うこと、および②院内における標準予防策 (standard precaution)を確実に実施すること、が院内感染の防止に有用である。
- ・ 妊娠後期の妊婦は重症化しやすく、感染予防に特に気を配る必要がある。症状のある妊婦に確実に速やかに PCR 検査が実施できる体制の整備が必要である。

以上